

岐阜県池田町  
デジタル田園都市国家構想総合戦略

令和7年3月

岐阜県池田町

# 目次

第1章 岐阜県池田町デジタル田園都市国家構想総合戦略の 基本目標と改訂方針	1
第2章 池田町が取り組む具体的プロジェクト	3
1. 町民と役場が協力しながらまちづくりに取り組む	
2. 池田町に仕事をつくり、町民が安心していきいきと働ける	
3. 町民が町に愛着を持ち、PR できるようになることで、新しいひとの流れをつくる	
4. 若い世代の結婚・子育ての希望をかなえる	
5. 中高生と社会をつなぐなど、時代にあった地域を作る	
6. 広域連携により圏域の新たな魅力をつくる	
第3章 おわりに	21

## 第1章 岐阜県池田町デジタル田園都市国家構想総合戦略（以下「デジ田構想総合戦略」）の基本目標と改訂方針

令和元年度までに実施した事業の中で、未達成の数値目標があることから、第1期岐阜県池田町版地方創生総合戦略（以下「第1期総合戦略」）の取り組みの継続を図りつつ、国の地方創生関係の交付金（デジタル田園都市国家構想交付金）、企業版ふるさと納税の活用など財源の確保に努めながら、より効果的な取り組みを進めます。

第1次総合戦略の検証で挙げた課題を解決し、第六次総合計画に掲げる「ぬくもりあふれるまち池田町」を実現するには、町民と役場の対話、協働によるプロジェクトの企画、実施が不可欠です。このため、町民と役場がお互いの強みを発揮しながら、まちづくりを進めます。プロジェクトの実施にあたって、役場は、部署の垣根を越え、横断的に取り組むことが重要です。

また、令和4年6月には国が「デジタル田園都市国家構想基本方針」（以下「デジ田構想基本方針」）を示し、令和5年3月に岐阜県は国のデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した「清流の国ぎふ創生総合戦略」を改定しています。池田町においても国・県の改訂方針・内容を鑑みて、令和5年9月に第2期岐阜県池田町版地方創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」）の改訂を行いました。

今回の改定では、国と地方が一体となり中長期的視点に立って取り組む体制となるように国・県戦略の計画期間である2027年度（令和9年度）まで本戦略の計画期間を延長します。また、地域防災力の向上、子育て環境の整備について追加および必要な見直しを行います。

### 主な改正内容

- ・計画期間の延長
- ・計画期間延長に伴う基本目標及び施策における数値目標（KPI）の再設定を実施
- ・災害有事の際に、地域防災リーダーとなる人材育成や、住民と役場が連携した地域防災力の向上を念頭に、基本目標1に「役場で一体となり地域を守る「地域防災力」向上活動」を追加
- ・基本目標3の「⑧移住者向けの情報発信及び町内空き家の利活用」について内容の見直し及び拡充を実施
- ・基本目標4の「⑩子育て・就労応援センターの運営」を「子育ても仕事も！希望を叶える環境・体制整備」と変更し、内容の見直し及び拡充を実施

主な改訂内容を踏まえた基本目標とプロジェクトは以下のとおりです。

#### 基本目標1 町民と役場が協力しながらまちづくりに取り組む

2060年に池田町の人口13,046人（2020年：23,360人）

※総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計」、岐阜県提供データより

<プロジェクト>

- ① 町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト
- ② 地方創生プロジェクト推進助成金事業の実施

### ③ 町民と役場で地域を守る「地域防災力」向上活動

#### 基本目標2 池田町に仕事をつくり、町民が安心していきいきと働ける

2027年の町内従業者数 7,950人（2023年：8,362人）

※総務省・経済産業省「令和3年経済センサスー活動調査」より

##### <プロジェクト>

#### ④ 企業誘致計画の立案

#### 基本目標3 町民が町に愛着を持ち、PRできるようになることで、新しいひとの流れをつくる

2027年の池田町の観光客数 64万2,000人（2023年：58.4万人）

※岐阜県「令和5年岐阜県観光入込客統計調査」市町村別集計より

##### <プロジェクト>

#### ⑤ 「いい塩梅のまち」池田山を活用した体験交流ツアーの実施

#### ⑥ ONSEN ガストロノミーウォーキング事業

#### ⑦ 池田高校と連携した「池田イケてんだプロジェクト」

#### ⑧ 移住者向けの情報発信及び町内空き家の利活用

#### 基本目標4 若い世代の結婚・子育ての希望をかなえる

2030年までに、合計特殊出生率 1.53 を実現（2018年～2022年：1.23）

2030年までに、婚姻率 5.1% を実現（2024年：2.0%）

※「平成30年～令和4年 人口動態保健所・市区町村別統計の概況」、「西濃地域の公衆衛生 2023」より

※2030年の目標達成に向け、計画期間中においても、合計特殊出生率及び婚姻率の進捗状況を確認する

##### <プロジェクト>

#### ⑨ 結婚新生活支援事業

#### ⑩ 子育ても仕事も！希望を叶える環境整備

#### 基本目標5 中高生と社会をつなぐなど、時代にあった地域をつくる

2020→2030年の10～30代の社会増減数±0人

##### <プロジェクト>

#### ⑪ 職業体験・キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む

#### ⑫ 「達人から学べ！」町の達人と町民の交流の場づくり

#### ⑬ 街を明るくするプロジェクト

#### ⑭ ライフサポート強化事業

#### 基本目標6 広域連携により圏域の新たな魅力をつくる

2027年の西濃圏域における観光客数 709万人（2023年：645.4万人）

※岐阜県「令和5年岐阜県観光入込客統計調査」より

##### <プロジェクト>

#### ⑮ 揖斐池田サイクルトレイン日本一への挑戦プロジェクト

- ⑯ 国内海外観光誘客プロジェクト事業
- ⑰ 西美濃地域定住促進PR事業
- ⑱ 大垣地域経済戦略推進事業

【計画年度】

2020年度（令和2年度）から2027年度（令和9年度）

※デジタル田園都市国家総合戦略及び「清流の国ぎふ」創生総合戦略の計画期間が2027年度までであることから、国と地方が一体となり中長期的視点に立って取り組む観点から、より効果的な運用を行うために本戦略の計画期間の終期を2027年度まで延長する。

## 第2章 池田町が取り組む具体的プロジェクト

### 1. 町民と役場が協力しながらまちづくりに取り組む

#### ① 町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト



#### 【背景】

2015年度より町民参加型ワークショップ「池女会」や「アイデア工房会議」を開催し、“町民と役場の協働によるまちづくり”を進め、地方創生総合戦略に位置付けた各プロジェクトを実施しています。町民と役場の対話、協働により進められた各プロジェクトは、町民に喜んでいただける質の高い成果を生み出すことができました。この流れを加速化・継続するために民間のなかから町民と役場をつなぎ、まちづくりを実施するコーディネーター（地方創生人材/指定管理者）を確保・育成する必要があります。

#### 【実施内容】

- 1) コーディネーター（指定管理者）は、池野駅駅舎を拠点として、町民の声を聴き、町民と役場の橋渡しをしながら、自らの独自イベントの開催及び町内の活動団体やイベントの支援をします。
- 2) まちづくり工房「霞溪舎」の利用者・利用率増加に向けPR活動を実施します。
- 3) 池野駅が中心となって、町の賑わいの創出を進めます。

#### 【解決した姿】

##### 〔概要〕

池野駅が中心となって、周囲の医療モールや商店街を含めた町の賑わいの創出が期待できます。まちづくり活動団体やイベントが活性化し、賑わいがある町になります。

〔KPI〕 1) は中間活動指標。2) が最終成果指標。

- 1) コーディネーター（指定管理者）が支援したまちづくり活動団体・イベント数  
：2025年度 4件
- 2) コーディネーター（指定管理者）が支援したまちづくり活動団体・イベント数  
：2027年度 6件

#### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.指定管理者によるイベント等の実施	➡				
2.まちづくり活動団体・イベントの運営	➡				

## ② 地方創生プロジェクト推進助成金事業の実施



### 【背景】

平成 29 年度より、町民主体による事業で、総合戦略に位置づけられた事業に対して助成する制度を実施しています。第六次総合計画においても重点目標として地方創生の拡大と醸成が位置づけられていることから、今後も継続して支援を実施していきます。

### 【実施内容】

- 1) 町民主体の事業で、デジタル構想総合戦略に位置づけられた事業等に対して、町からの助成事業を実施します。デジタル技術を活用した地域活性化事業に関する評価項目も設け、これまでにない取り組みを支援していきます。
- 2) まちづくり工房「霞溪舎」の指定管理者は助成金対象事業を支援します。

### 【解決した姿】

#### 〔概要〕

町民と役場が協働し、最終的には町民主体のまちづくり団体として地方創生事業に取り組んでいきます。さらには NPO 法人などの法人格を持った団体の活動として拡大していきます。

〔KPI〕 1) は中間活動指標。2) が最終成果指標。

- 1) 町が支援した団体数： 3 件
- 2) 町内の NPO 法人数： 15 団体（2027 年度）

### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.地方創生プロジェクト推進助成金の実施					

### ③ 町民と役場で地域を守る「地域防災力」向上活動



#### 【背景】

池田町では平成 18 年度より地域の自主防災力の向上と環境整備の観点から自主防災組織の組織化費用や防災備蓄品・資材購入、自主的な防災研修や訓練の経費に補助を実施しています。池田町では自治会ごとに 46 組織の自主防災組織が存在し、地域内での「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感の醸成の一翼を担っています。

#### 【実施内容】

- 1) 町民が主体となって行う地域防災力向上に資する活動の補助、支援を行います。
- 2) 地域の防災拠点となる公民館・施設の新設や改修、防災等資材の整備を行います。
- 3) 地域防災リーダーとなり得る防災士の資格取得補助、消防団員の確保や運営活動への支援を行います。

#### 【解決した姿】

##### 〔概要〕

町民と役場が協働し、地域が主体的に考え活動を行う自主防災組織として地域内での防災意識の向上に取り組んでいきます。また地域内に防災士等の地域防災リーダーを担う人材が存在し、主導的に地域防災力向上に取り組んでいきます。

##### 〔KPI〕

- 1) 自主防災組織補助金の利用率： 100% (2024 年 45.65%)
- 2) 池田町内の防災士有資格者の人数： 100 人 (2024 年 58 名)

#### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2024	2025	2026	2027
1.自主防災組織補助金の実施	→			
2.防災士育成事業補助金の実施	→			

## 2. 池田町に仕事をつくり、町民が安心していきいきと働ける

### ④ 企業誘致計画の立案



#### 【背景】

税込増および雇用の確保を目指す施策の1つとして、企業誘致は効果的です。これまでの企業誘致は、個別事案が浮上した際に、その実現を目指すという待ちの姿勢でしたが、今後は、積極的に企業に対して誘致を提案する必要があります。このため、企業のニーズや誘致が可能な土地情報等を把握、整理し、誘致計画を立案します。また、ドローンを活用した空撮を用いて、土地のより分かりやすい可視化を図り、企業への説明等に役立てていきます。

#### 【実施内容】

- 1) 町が企業誘致へ向けた各種施策（企業が求める情報の収集、国や県の施策の把握、国や県と協力した誘致予定地の検討、地権者への交渉など）を実施します。
- 2) 工場等設置奨励金・雇用促進奨励金の交付により、企業の設備投資を促し、事業拡張の支援をします。

#### 【解決した姿】

##### 〔概要〕

町が、積極的に誘致活動を行うことで、企業が池田町に移転し新規雇用が生まれています。

〔KPI〕 2) が最終成果指標。

- 1) 町事業として積極的に誘致活動を行う： 訪問企業数10件
- 2) 企業が移転し、新規雇用が発生している： 2027年度 移転・進出企業数 累計4社

#### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.町としての誘致活動の実施	➡				

### 3. 町民が町に愛着を持ち、PR できるようになることで、新しいひとの流れをつくる

#### ⑤ 「いい塩梅のまち」池田山を活用した体験交流ツアーの実施



#### 【背景】

池田山麓付近を中心として、サイクリングやパラグライダー、ブルーベリー摘みなどの体験型観光資源が点在します。しかし、桜の季節以外、休日の観光客数が落ち込んでおり、第1期総合戦略策定後より増加してはいますが、それでもなお、県内と比較して観光消費額が低くなっています（※）。今後、年間を通じて楽しめる体験交流ツアーづくりやガイド育成により、日帰り客の観光消費額の増加を目指します。

さらに近年、映画やアニメのモデル・ロケ地となった地域を巡る聖地巡礼などによる経済効果は大きなものとなっています。

令和元年、揖斐郡を中心に西濃地方で撮影された地方創生ムービー「ブルーヘブンを君に」が令和2年6月公開されました。これを期に撮影箇所であったロケ地をパンフレットにまとめました。そのロケ地マップを活用・PRすることで、観光・交流人口の増加につながります。

※1人当たり観光消費額（日帰り客）：3,805円（岐阜県）、3,132円（西濃地域）

（岐阜県「令和5年岐阜県観光入込客統計調査」）

#### 【実施内容】

- 1) 町民や民間企業と連携して、どの年代、どの地域の方をターゲットとするかを検討しながら、体験交流ツアーを企画・PRします。
- 2) 体験交流ツアーに必要なガイドを育成します。
- 3) 体験交流ツアーに必要な施設設備（体験交流施設、休憩所、トイレ、レンタサイクル、バーベキューハウス等）の整備・運営を進めます。特に、観光客で賑わう大津谷公園については、収益を上げる施設としてバーベキューハウスを運営します。また、大津谷公園の指定管理者と連携し、ネット予約の活用等、より便利に使ってもらえるよう取り組みます。
- 4) 観光客の利便性を向上させるため、町道や林道の整備をします。
- 5) 観光消費額を高めるため、町として統一的に、土産物商品のパッケージデザインを行い、池田の太鼓判として認定します。
- 6) 映画ロケ地マップの活用をします。

#### 【解決した姿】

##### 〔概要〕

体験交流ツアーやイベントが実施され、交流人口が増加し、関係人口が創出され、町ににぎわいが生まれる。ツアー化することで、1人当たりの観光消費額が高まっています。また、観光情報のSNSでの発信や、インターネットを活用した大津谷公園の利用等により、特に若者に対して情報が周知でき、利用しやすく訪れやすくなります。

〔KPI〕 1)、2) は中間活動指標。3) が最終成果指標。

- 1) 体験交流ツアーの実施数：2027年度 1回（年間を通して期間限定開催）

- 2) 体験交流ツアー年間参加者数：2027年度 300人／年度  
 3) 西濃地域1人当たりの観光消費額（日帰り）：2027年 3,400円  
 （2023年 3,132円）

【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.体験交流ツアーの実施	→				
2.大津谷公園バーベキューハウス運営	→				
3.体験交流ツアーの実施	→				
4.ロケ地マップの活用・PR	→				
5.観光・イベント情報のSNS発信	→				

⑥ ONSENガストロノミーウォーキング事業



【背景】

これまでも池田町を周遊してもらうためのガイドマップ、ウォーキング案内マップ等は制作し、周知してきたが、ONSENガストロノミーウォーキングのような“歩く”“食べる”“飲む”が一緒になったイベント開催はなく、池田町の景色や雰囲気、特産品を一度に楽しんでもらえるイベントとなる。また、「ONSEN」とあるように「温泉」に入って帰ってもらうまでを行程とするので、池田温泉のPRも同時にすることができる。

【実施内容】

- 1) 継続的に池田町を訪れ、関わってくれる人口（関係人口・池田町のファン）を増やすため池田町の景色、特産品を活用したウォーキングイベントを開催する。また、参加者には池田温泉に入ってもらえるように温泉入浴券も配布する。
- 2) 池田町内の特産品だけでなく、西濃圏域や友好都市の特産品も提供することで、広域的なPRの広がりを狙う。
- 3) 参加者には、自身のSNSアカウント（Twitter、Insutaguram等）で発信してもらえるような仕組みをつくり、参加者だけでなく、その周りにも広く池田町の魅力をPRする。

【解決した姿】

〔概要〕

池田町のファン・関係人口が増え、人の流れが生まれます。また、SNSをうまく活用することで、これまでにない情報（池田町の魅力）の広がりを見せます。

〔KPI〕

- 1) イベント参加者数： 150人
- 2) 参加者の満足度： 2027年度 100%

【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1. ウォーキングイベントの実施	➡				

### ⑦ 池田高校と連携した「池田イケてんだプロジェクト」



【背景】

池田町の人口動態をみると特に10代～30代の転出超過が多く、一度町外に出たら、戻らないケースが多くなっています。中学、高校の内から池田町の魅力や住みやすさを認識し、シビックプライド醸成のための町内への情報発信とこれまでも課題になっている町外への魅力発信を強化することが必要です。池田高校の生徒による“若い”目線を活かし、若者の情報取得ツールとしての“SNS”を活用した広く・効果的な情報発信を行うことが必要です。

【実施内容】

- 1) 池田町と池田高校による SNS 情報発信連携事業である「池田イケてんだプロジェクト」の実施。池田高校生の若い目線を活かした町内外への情報発信
- 2) スマートホンでできる“魅せる”動画の作成と発信による池田町の PR
- 3) 池田町の魅力紹介動画を作成し、デジタルサイネージ等で公開します。また、町の公式 Youtube や公式 SNS アカウントにも投稿し、広く周知する。動画の撮影にはドローン等のデジタル技術を活用し、高校生が主体となって作成します。

【解決した姿】

〔概要〕

池田町のことをあまり知らない・興味のない住民への積極的な情報発信によるシビックプライド醸成と、町外への情報発信により池田町に関心を持つ関係人口が増える。最終的に住みたい・住み続けたいと思ってもらえる町になります。

〔KPI〕

- 1) 池イケプロジェクトSNS投稿いいね数： 20件／投稿
- 2) 10～30代の人口増減数： 2027年度 20人



【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.移住推進施策の実施					
2.空き家バンクの整備・運用					

#### 4. 若い世代の結婚・子育ての希望をかなえる

##### ⑨ 結婚新生活支援事業



###### 【背景】

池田町では様々な子育て支援施策を実施しています。手厚い子育てサポートが充実しているのですが、池田町の合計特殊出生率は令和4年時点で1.01と全国、県平均を大きく下回っている状況です。県主導の総合的な結婚支援に加え、市町村と連携し、取り組みを重点的に行うことが、不可欠となります。若い世代の結婚の後押しとなる事業が必要になります。また、結婚後は出産・子育てと不安なく進めるように既存の支援を引き続き実施していきます。

###### 【実施内容】

- 1) 所得要件、年齢要件を満たす新婚世帯に対して支援金を交付します。
- 2) 岐阜県及びぎふマリッジサポートセンターと連携し、制度の周知・情報提供を行います。

###### 【解決した姿】

###### 〔概要〕

支援金を受けたことにより、新生活の不安が解消される。その結果、妊娠・出産への意欲がわき、出生数の減少に歯止めをかけることができます。

###### 〔KPI〕

- 1) 支援をきっかけに結婚した世帯数：2027年度 3世帯
- 2) 本事業アンケートによる「地域に応援されていると感じた世帯の割合」 (%)  
：2028年3月 50%

###### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.結婚新生活支援金の交付	→				

##### ⑩ 子育ても仕事も！希望を叶える環境・体制整備



### 【背景】

女性の年齢別就業率によると、25～34歳の就業率が落ち込んでおり、全国平均より低い数値となっています。

子育て中であっても働きたい、収入を増やしてもう1人子供を産みたいという希望を叶えるため、子育て支援、就労応援（町内の子育て応援企業とのマッチングや、スキルアップ講座の開催など）、多世代交流の機能を持つ、子育て・就労応援センターの運営及び設備の充実を図ります。また、子どもを安心して通園、通学させることができる保育園、学校の環境や施設整備を図ります。

また、子どもを産み育てやすい環境整備をすべく補助事業や支援体制作りを行います。

### 【実施内容】

- 1) 子育て・就労応援センターを運営及び設備の充実を図ります。
- 2) 保育園や学校の施設・環境整備の充実を図ります。
- 3) 未就学児から就学時までの子育て支援、町内の子育て応援企業とのマッチングやスキルアップ講座の開催などの就労応援、シニアクラブが行っている抱っこボランティアとの連携などの多世代交流を行います。
- 4) 子どもを産み育てやすい環境整備を行います。具体的には、小・中学校や保育園の給食無償化、子ども医療費の無償化、すくすく赤ちゃん券支給事業の交付など子育て支援施策等の充実を図ります。

### 【解決した姿】

#### 〔概要〕

本施設を活用することで、子育て中の女性が、子供を産んでからも安心して働けるようになります。

#### 〔KPI〕

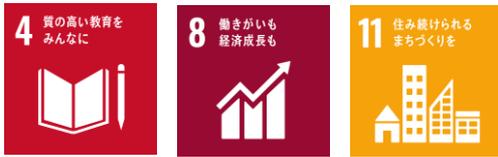
- 1) 就労相談や再就職に有利な資格取得のための学習講座へ参加した人数： 50人／年度
- 2) 本施設を通じて、就労につながった人数： 2028年3月 累計15人

### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.子育て・就労応援センターの運営					
2.講座の実施					

## 5. 中高生と社会をつなぐなど、時代にあった地域を作る

### ⑪ 職業体験、キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む



#### 【背景】

池田町の児童生徒から見て、自分の父母がどのような仕事をしているか知る機会がないという意見がありました。また、2019年に実施した町民アンケートでも、身近で目標とする大人がいると思っている小中学生が少ない、地元で働きたい場所があると思っている若者が少ないという実態が分かりました。これは将来に子ども達が地元企業の魅力を知ることもなく、町外へ就職し、池田町に戻ってこないことを意味します。また、これまで町内で実施されてきたキャリア教育は、先生が中心となってきましたが、地元企業との連絡調整の負担が大きく、学校側と地元企業側とで目的の共有を十分に図れないこともありました。

そのため、職業体験、キャリア教育プログラムの作成、改善を通じ、子ども達が地元でいきいきと働く大人に触れることで、町内での就職率向上につなげることを目指します。

#### 【実施内容】

1) 中高生にとって魅力的な職業体験・キャリア教育プログラムを作成・実施します。

#### 【解決した姿】

##### 〔概要〕

専門のコーディネーターが、学校と企業の橋渡し役になり、より魅力的な職業体験、キャリア教育が行われています。企業にとっては、職業体験、キャリア教育を通じて、自社の魅力が子ども達に伝わります。これにより、将来、池田町で働きたいと思う若者が増えます。

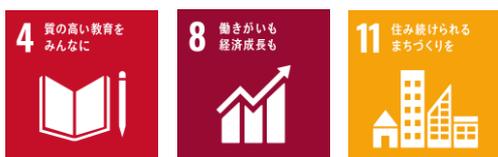
〔KPI〕 1)、2) 及び3) は中間活動指標。4) 及び5) が最終成果指標。

- 1) コーディネーターが企業を訪問した数： 2026年3月 50社
- 2) 職場体験・キャリア教育プログラム受講生数： 2026年3月 900人
- 3) 職場体験・キャリア教育プログラムへの受講生の満足度： 2026年3月 90%
- 4) 将来、池田町で働きたいと思う中3生の割合： 2028年3月 15%
- 5) 将来、地元に住みたいと思う中3生の割合： 2028年3月 25%

#### 【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.キャリア教育の実施	➡				

⑫ 「達人から学べ！」町の達人と町民の交流の場づくり



【背景】

町民同士のつながりが弱くなっている、既存の地域コミュニティには参加しづらいという意見がありました。そこで、体験、学習、文化という視点で、町民から様々な分野での達人を発掘し、達人と町民がふれあえる機会をつくります。

【実施内容】

- 1) 交流の場を作るための実行委員会を組織し、体験型のイベントなど達人と参加者との交流のきっかけとなるようなイベント企画・実施を行います。
- 2) 町内で既に行われている教室やイベントなどへの参加にもつながるような交流のきっかけを提供します。

【解決した姿】

〔概要〕

町民間の交流が進み、いい人たちがいるからここに住みたい、居心地のいいまちになります。

〔KPI〕 1) 及び2) は中間活動指標。3) が最終成果指標。

- 1) 体験学習プログラムの講座数： 2026年3月 11講座
- 2) 体験学習プログラムの参加者数： 2026年3月 250人
- 3) 参加者のうち、達人が実施している教室やお店に、また行きたいと思った人の割合  
：2029年3月 80%

【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.体験学習プログラムの実施	→				

⑬ 街を明るくするプロジェクト



【背景】

夜間、通学路・商店街・駅前などが暗く、安心・安全という点で不安があるという意見がありました。そのため、行灯やイルミネーション等を活用した町全体を明るくするイベントの実

施、街のにぎわい、活性化を推進するイベント、周辺環境の整備を目指します。

【実施内容】

- 1) 町民が主体となって、イベント実施内容（時期、場所、手法など）の決定やイベント運営を行います。
- 2) 養老鉄道イルミネーションを活用したイベントの実施

【解決した姿】

〔概要〕

夜間に明るい光で照らされた魅力的なまちになります。

〔KPI〕 1) は中間活動指標。2) が最終成果指標。

- 1) 街を明るくするイベント実施件数： 2026年3月 2件
- 2) 街を明るくするプロジェクトイベント参加者数： 2029年3月 100人

【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1. イベント実施	➡				

⑭ ライフサポート強化事業



【背景】

在宅生活において、掃除、草取り、買い物などで困っている高齢者等がいます。現在、地域のNPOがこういった方をサポートする事業を行っていますが、認知度において課題があります。今後、そのような活動の情報提供や参加呼びかけを進めます。

【実施内容】

- 1) 町は、民生委員や福祉委員、社会福祉協議会等と連携し、事業の周知およびサポーターの募集を支援します。

【解決した姿】

〔概要〕

PRの結果、ライフサポート事業の利用者が増えます。高齢になっても、住み慣れた家で暮らし続けられる町になります。

〔KPI〕

1) ライフサポートの利用時間数：2025年度 1,000時間（2023年度 703.5時間）

【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2027
1.ライフサポート事業等の実施					

## 6. 広域連携により圏域の新たな魅力をつくる

### ⑮ 揖斐池田サイクルトレイン日本一への挑戦プロジェクト



【背景】

池田町、揖斐川町には池田温泉、霞間ヶ溪公園、池田恒興のお墓、願成寺古墳群、谷汲山華厳寺、横蔵寺、徳山ダムなど恵まれた観光資源が存在します。しかしながら、最寄り駅からの2次交通手段がないため、車を持たない都市部の方にとって訪れにくい状況にあります。

また、池田町・揖斐川町内を走る養老線は、少子高齢化の影響で年々利用客が減少し、年間赤字額が膨らんでおり、日常的に利用客が増えるような抜本的な改善策が求められています。

【実施内容】

- 1) 池野駅・揖斐駅に設置の無人で貸し借りが可能な、GPS機能付きの電動アシストレンタサイクルを運営します。
- 2) 日本一のサイクルトレインとしてのブランドイメージを確立するためのPRイベントを実施します。
- 3) 映画ロケ地を活用したレンタサイクルツアーイベント等を企画します。

【解決した姿】

〔概要〕

日本一のサイクルトレインとしてのブランドを確立し、国内・国外の自転車愛好家が養老線を訪れる姿、中部圏・関西圏の都市部に住む方がサイクリングを楽しみに訪れる姿が実現しています。

利用実績をあげることで、養老線沿線他市町にもレンタサイクルの整備が波及しています。

なお、2025年度または2026年度には事業の再構築や広域化について検討を行う予定です。

〔KPI〕 1) は中間活動指標。2) が最終成果指標。

1) レンタサイクルの利用人数： 600人／年度

2) 西濃地域の他市町へのレンタサイクル波及台数：2029年3月 50台

【事業の流れ】

実施項目／年度	2023	2024	2025	2026	2028
1. レンタサイクルの運営					
2. PR イベントの実施					

⑩ 国内海外観光誘客プロジェクト事業



西美濃地域全体の魅力を集約し、PR力を強化し、大都市圏や海外における認知度の向上を目指し、大都市圏等でのプロモーション、情報誌の作成、ホームページの制作、海外でのトップセールス、海外の人気ブロガーの活用による情報発信等を実施します。

また、各市町の観光資源等を連携させ、回遊性を持たせるためのスタンプラリーやクーポンの発行、鉄道事業者や旅行業者等と連携したパッケージ旅行等を実施します。

さらにインターネットを活用した特産品の全国的な販促や、海外の観光物産展への出展等による地元特産品の知名度向上、収益力を高める観光事業の拡充・強化を実施します。

⑪ 西美濃地域定住促進PR事業



西美濃地域全体の魅力を集約し、大都市圏開催の移住セミナー（東京・大阪・名古屋）等へのブース出展、PR事業を実施することで、PR力を強化し、大都市圏における認知度の向上を目指します。名古屋駅地下鉄の構内にあるデジタルサイネージへの掲載や、Instagram広告への掲載を行い、より多くの人々の目に触れやすいよう工夫してPRしていく。

⑫ 大垣地域経済戦略推進事業



大垣市を中心とした西美濃地域の経済戦略を推進するため、大垣ビジネスサポートセンター Gaki-Biz（ガキビズ）の運営、企業創業支援、経済戦略セミナーの開催を実施します。町内でも就業・創業支援の相談会を年2回程度開催していきます。

【解決した姿】

〔KPI〕

- 1) 西濃圏域における観光客数：2027年 709万人（2023年 645.4万人）
- 2) 西濃圏域における宿泊者数：2027年 38万人（2023年 34.9万人）
- 3) 西濃圏域における事業を通じた起業・創業件数：2027年 75件（2023年 68件）

### 第3章 おわりに

① 池田町の大人が元気になる。

池田町に以下の2つの課題があります。1) 町のことを当たり前と捉え、良さに気づいていないこと 2) 人と人とのつながりが弱いと感じる人が多いこと。この2つを解決することで、自分達の良さに気づき、人とのつながりが強まり、池田町の産業が活性化し、池田町の大人が元気になります。

② 中高生が池田町に愛着を持ち、池田町で働くようになる。

町内の中高生が、町内の大人がいきいきと働き、暮らす姿を見ることで、自分も池田町へ恩返しをしたいと愛着を深め、町内での就業を選択肢の1つとして視野に入れるようになります。

③ 池田町で働き始めた若者が池田町に定住するようになる。

新規雇用の創出により池田町で働き始めた若者が、池田町内で、同世代及び多世代の人と様々なつながりをもてる機会が増えることで、池田町への定住に繋がります。

④ 結婚したばかりの夫婦が安心して子育てができるようになる。

結婚し、子どもが生まれた夫婦にとって、子育ての悩みを気軽に相談できる場所があることで、安心して子育てができ、2人目、3人目を産もうとなります。

⑤ 年をとっても、地域の人と繋がりながら、健康に、自宅で生活ができる。

地域の様々な施設などを活用しながら、地域の方々と語らうことで、自宅で健康に暮らせることができます。

⑥ デジタル技術の積極的な活用

既存の事業や新規事業において、積極的にデジタル技術を活用し、時代に合った施策展開をしていく。そうすることで地方創生施策の効果をより加速・展開していく。

※①から⑤の善循環と⑥の推進により、池田町民が、更に池田町に愛着を持ち、いきいきと暮らせるようになるまちを目指します。